

ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

ベトレヘムの風

発行：ベトレヘムの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.net>



No.129

ベトレヘムの絵画 2025年3月

院長 青木 信彦



病院には多くの絵画・写真が寄贈されています。殺風景な病棟や外来の雰囲気が和らぎます。

ありがたいことです。ベトレヘムでは絵画を寄贈された作者の紹介と作品の内容をコメントと

して掲示しています。ぜひとも作品とともにコメントもご覧下さい。親近感が伝わってきます。

じつは外来待合に大きな絵画がありますが、鷺眼馨子(わしのめ・けいこ)画伯の作品です。その制作は1965年と、今から60年前です。鷺眼画伯の代表作の「紫陽花(あじさい)」です。この絵は不思議な流れの中で最終的にベトレヘムへ寄贈されました。

鷺眼画伯は仙台で絵画制作活動のかたわら下宿屋を営んでいました。下宿の住人は学生・単身サラリーマンなど8名程度で、朝食(笹かまぼこ)と夕食(焼き魚)は画伯が近所の魚屋から調達し、下宿人は大きなチャブ台を囲んで黙々と食べていました。下宿は4畳半の個室、トイレと洗面所は共用で、風呂は近所の銭湯です。(入浴は週に2回程度が当時のスタンダード)

いっぽう、親の言うことに従順であった「あおき」は3つの大学受験に挑戦しました。結果はゼロ勝3敗でした。親の選んだ大学が間違っていたのです。(受験の前年12月の全日本卓球選手権大会に出場したことも受験失敗に貢献～受験を甘く見ていたのですね)

そして浪人(当時は傘ハリと呼ばれていた)となりました。そこで、あらたな挑戦を目の前に北海道旅行で心

機一転し、帰りは仙台に立ち寄りました。仙台には父親が学生時代を過ごした下宿屋さんがあったのです。そこで鷺眼画伯に会って仙台の予備校を勧められ、従順なあおきは画伯の下宿人となったのです。ベトレヘムの「紫陽花」はその頃の作品で、その制作中の画伯の真剣な眼差しに畏敬の念を抱きました。そして数奇な運命を経て「紫陽花」はこのベトレヘムにきたのです。

この「紫陽花(花言葉は辛抱強さ)」を見ると、いつも傘ハリ時代の自分が思い出されます。

直接、寄贈されたのは画伯の次女さんです。そのコメントは迫力があります。

～母は絵を描くことが生きがいであり、最後まで苦しみでもありました。多くの方に観ていただくことで喜んでいと思います～(画伯は20年前に他界されています)。

おそらくベトレヘムへ寄贈された絵画・写真の一つひとつに「紫陽花」と同じような人生の流転が絡んでいるのだと思います。じっと鑑賞していると、作者の人生が垣間見えてきますね。



「紫陽花(あじさい)」

鷺眼馨子(わしのめ・けいこ)画伯 仙台市 1965年制作
(ベトレヘム外来 待合室 展示されています)

入院アンケート結果報告



昨年11月から12月にかけて入院患者様・ご家族様を対象に当院についてのアンケート調査を行わせていただき、この度調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

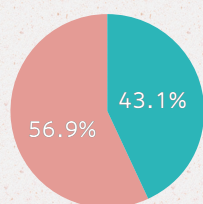
<実施概要>

- ・期間…令和6年11月～12月
- ・対象…入院患者様・ご家族様
- ・方法…質問項目の書かれたアンケート用紙の配布回収、Google フォームによる回収
- ・回答件数…51件

～アンケート結果～

入院病棟

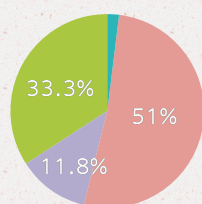
51件の回答



■1階 ■2階

患者様と回答者様との関係

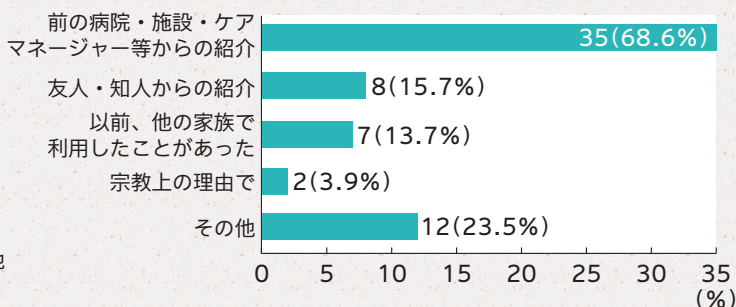
51件の回答



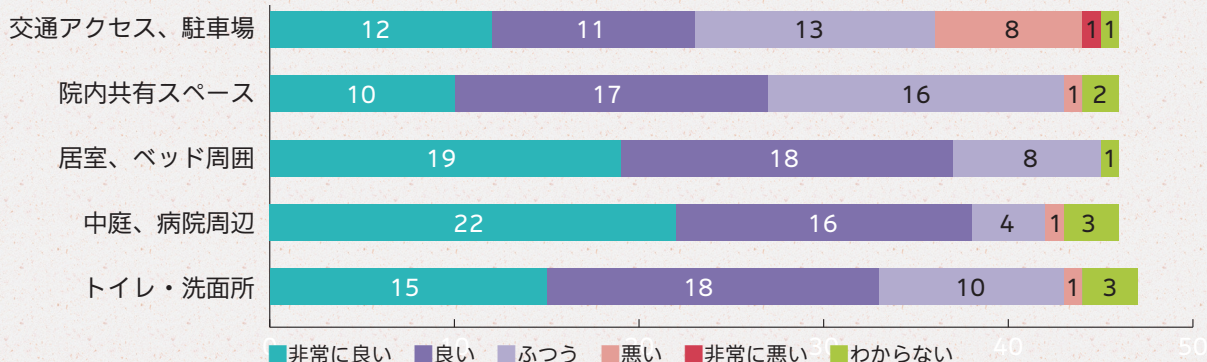
■本人 ■子 ■親・きょうだい ■その他

当院を選ばれた理由 (複数回答可)

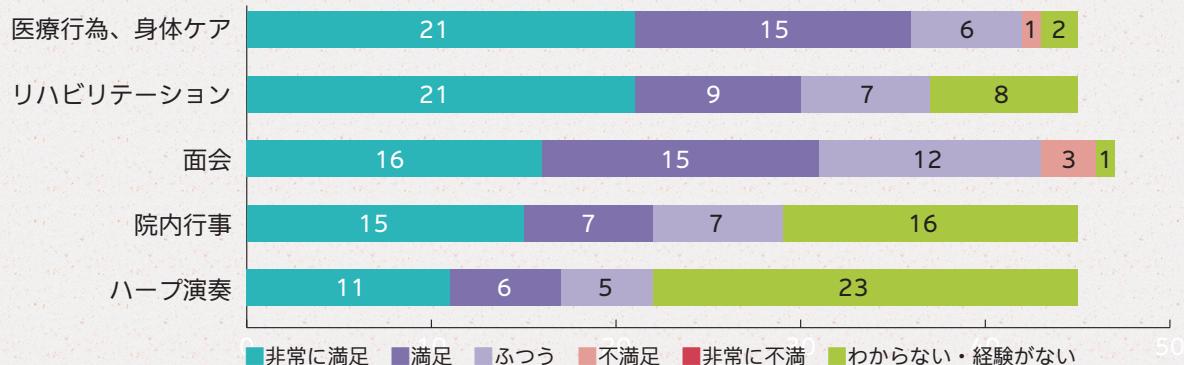
51件の回答



療養環境について



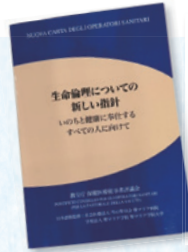
療養生活について



後記

調査にご協力いただきました皆様に、心より御礼を申し上げます。
 多くのご意見やご要望を真摯に受け止め、より良い環境づくり、業務へと活かしてまいります。今後とも、お気づきの点がございましたら、お気軽に院内のスタッフへのお声掛けや、ご意見箱へ投函など、お声をお寄せください。ご協力ありがとうございます。
 MSW 宮本 佳苗

日本カトリック医療施設協会 研修会報告



日本カトリック医療施設協会 2024年度 職員研修会出席のため、ガラシア病院に行かせて頂きました。今回の研修は、サン・スルピス司祭会の牧山強美神父様から、昨年翻訳された「生命倫理についての新しい指針」についての講義と分かち合いです。弾丸日帰り大阪行き(汗)。 師長 丸山 明美

朝5:00出発~22:40帰宅という忙しくハードな大阪での研修でした。お昼もそこそこに切り上げ、千里中央駅からタクシーで研修会場のガラシア病院

に行く道中、「そのこの角の裏が西〇き〇しの家で、その先が上〇え〇この家ですね~」と大阪のオジちゃんらしいアナウンスがあり、あつという間に山の中腹のガラシア病院に到着。こんなに時間をかけて来たわりに研修はたったの2時間+α。ただ、内容は総じていのちの奉仕、愛を忘れない愛を持って接するという大切な事で、ありがたく学ばせてもらった貴重な研修でした。この学びを生かして日々の業務に取り組んでいこうと思います。

介護福祉士 富田 まさ子

健康公開講座の報告

「簡単なホームエクササイズで転倒予防」

理学療法士 井上 翼

今回の講座では、転倒について「転倒するとどうなるのか」「転倒の原因」「予防のための簡単な運動」の3点を大きなテーマとしてお話ししました。転倒を起因として、自分の人生が大きく変わってしまうことがあります。そのため、運動習慣をつけ、周囲の環境に気を配ることが大切になります。効果を実感しにくいですが、実践しなかった場合よりも確実に体は変化します。簡単な事を、コツコツと積み重ねていくことが大切になります。



2月の行事食 「海鮮ちらし寿司」

新企画
「コラム“栄養科便り”
「行事食」のご紹介」

2月23日(日)の天皇誕生日にちらし寿司を作り、提供しました。

作り方

人参、レンコン、かんぴょう、椎茸を醤油、みりん、砂糖、だし汁で煮汁が少なくなるまで煮付けておきます。

寿司酢は酢、砂糖、塩をよく混ぜておき、少し硬めに炊いたご飯が熱いうちに盤台や大き目のボールに入れ、寿司酢を回しかけしゃもじで切るように混ぜます。

この時、うちわなどで熱を冷ましながらか合わせ、具材を入れ混ぜて完成です。

盛付けに錦糸卵、絹さや、甘酢生姜を盛付け、今回はイクラとマグロたたきを乗せました。

子供さんや家族、友人とみんなで作ると楽しい時間が過ごせると思います。

調理師 松村 義則



ひふの話

その
81

市川 雅子(皮膚科医師)

種痘

このコーナーでは2023年にサル痘(現在はエムボックスという名称に変更)の話題の中で天然痘についてふれていますが、今回は、その予防接種である種痘についてです。



18世紀末にイギリスのジェンナーが、牛痘に感染した乳しぼりの女性達が天然痘にかからないことから種痘という天然痘のワクチンを作りました。

今回、種痘についてのお話にしようと思ったきっかけは、今年1月に公開された「雪の花」という映画のCMを見て原作本(吉村昭著:新潮文庫)を読んだからです(実は映画はまだ見ていません)。福井県に実在した江戸時代の医師が、天然痘で次々と亡くなっていく民を見て、何とか救いたいという強い思いから、様々な困難を経て種痘という天然痘の予防法を地元の福井に広げるために尽力したお話です。日本での種痘は、種痘のもととなる痘苗が入手でき、種痘の方法を熟知したオランダ人医師のいた長崎から始まり、九州～関西～江戸へと広がっていったようです(その約20年前に函館では、ロシアに拉致拘留中に種痘法を会得して帰国した男が一時的に種痘をやっていたようですが、その方法を他人に伝えず広

まりませんでした)。しかし、幕府や藩主達が理解し許可しているにも関わらず、種痘についての役人たちの無理解無関心、藩医や漢方医達の抵抗が思いのほか強く、市井の人々に種痘という予防接種を理解させ受けさせることが当初とても大変な事業であった、ということを知り、新しい種類のワクチンである新型コロナウイルスワクチンについての騒動を思い出しました。

ここで、天然痘について簡単に説明しましょう。これは紀元前のかかなり古い時代から地球上に存在したウイルスによる病気です。感染力が強く、致死率も高く、治っても瘢痕(あばた)が残るため人々から恐れられていました。潜伏期間は1～2週間、急な高熱と頭痛、四肢痛などがでたのち全身に発疹が出ます。皮疹は小紅斑→水疱→膿疱→かさぶた→瘢痕治癒となっていくますが、その時期に見られる皮疹の性状はすべて同じである、というのが特徴です。そして天然痘を根絶できたのは、発疹が出る前には感染力が無く、発疹が出たらすぐ隔離する、ということで、種痘による予防とともにコントロールしやすかったのです。1980年にWHOは天然痘の世界根絶宣言をおこない(現在に至るまで患者の発生がありません)、種痘は日本でも1976年以降定期接種がなくなり、1980年以降廃止されました。ただ、近年広まってきたエムボックスのように、天然痘ウイルスと同じ系統のウイルス疾患が出てくるのが今後もあり得ます。天然痘は過去の病気ではありますが、こんな病気があったということ、そして人類初のワクチンである「種痘」という言葉を忘れないようにしたいものです。

お知らせ

～ベトレヘムの地域公益活動～

ギャラリーマルゴ『柳町洋氏 絵画展』

令和7年3月24日・25日 10時から16時30分

様々な画材を使用した多くの作品が一堂に。ぜひご鑑賞ください。



新年度からの「ベトカフェ」再開のお知らせ

お休み頂いておりましたベトカフェが、5月21日(水)より再開します。

毎月第3水曜日開催です。おいしいお菓子とお茶でリラックスタイム♪



編集後記

全く違う業界からこの病院に転職して四半世紀あまり、今年で27回目の春を迎えます。

私にとってこの病院の変わらない魅力は「おっとり」した雰囲気です。働く職員も訪れる患者さんも表情がとても穏やか。そんな「おっとり」さんにも世の中の厳しい風は容赦なく吹き付けます。それでも笑顔を忘れず、今日自分たちが出来ることに精一杯取り組む、ひたむきな仲間が存在がこの病院一番の財産です。来年度も「ベトレヘムの風」は大切な仲間達の素顔を沢山お届けします。どうぞご高覧下さい。皆さまに素敵な春が訪れますように…。 (M・K)

